

できる・できる・できる

校訓：「自主・友愛・飛躍」

令和3年 8月 20日

No.23

長崎市立戸町中学校

文責 校長 大橋 功

<http://www.nagasaki-city.ed.jp/tomachi-j/>

平和の原点は人間(ひと)の痛みがわかる心をもつこと

～平和祈念集会より～

76回目の原爆の日を迎えた長崎。今年の平和祈念集会では、(公財)長崎平和推進協会の池田道明さんを講師にお招きし、池田さんが6歳の時に被爆し、経験したことをお話しいただきました。内容の一部をご紹介します。

~~~~~



小学1年生の夏休み。宿題もなく、何もすることがない中、同級生のしげちゃんと毎日遊ぶことが楽しみで、当時の長崎大学病院の屋上で、爆

弾のかけらを集めて遊んでいたそうです。8月9日も同じようにしげちゃんと病院の屋上で遊び、ちょうどエレベーターを使って、屋上から4階に降りようとしていた時に“ピカッ”と光を見て、そのまま気を失ったそうです。

次に目を覚ました時、辺りにはガラスで顔や頭を切った人がたくさんいて、病院の中庭は火の海で、多くの人々が死に絶え、誰なのかわからない状態。当時は「原子爆弾」という言葉がなく、とにかく病院の外に出れば大丈夫と思い、急いで逃げ出し



たけれど、目に飛び込む光景はすさまじいものでした。自分のことで精一杯で金比羅山の方に逃げる途中、突然「黒い雨」が降ってきて、ようやく中腹にある井戸までたどり着き、水を飲みながら長崎の街を見ると街中が燃えており、「あー長崎が燃えている」と思いながらその日は疲れて眠ったそうです。



2日目、金比羅山から銭座町に下り、大学病院の方へ向かうと、「みっちゃん、どこに行っちゃった。生きとったとね？」とおばちゃんから言わ

れ、お母さんのところまで連れて行ってもらうと、お母さんの背中にはたくさんのガラスが刺さっていて、池田さんは涙がポロポロとあふれ出た



そうです。夜に、ようやく仲良しのしげちゃんと会いました。しげちゃんはおばあちゃんと一緒に寝ていたけれど、次の日、おばあちゃんは死に、その次の日には、しげちゃんのお母さんも死にました。しげちゃん



のお父さんはすでに戦死しており、しげちゃんは独りぼっち。その後、しげちゃんとは会っていません。探したけれどわかりませんでした。

あれから76年。原爆は一発も使われていないけれど、地球は平和ではない。平和の原点は人間(ひと)の痛みがわかる心をもつこと。これからは、戦争を知らないみなさんの時代です。どうか、どうか、平和な世界にしてほしい。と、心を込めて生徒たちに語り掛けていただきました。



~~~~~

過ちを繰り返してはいけません！

池田さんが「地球は平和ではない。」と言われるように、現在も世界中のあちこちで戦争やテロ等が続いています。原子爆弾が、被爆者に対してどれ程の悲劇を生んできたのか想像するだけでも痛々しく、多くの悲しみを学んだはずなのに、新に核兵器を保有しようとする国も少なくありません。最近では、あのドローンまでもが、戦争の道具として売買されています。世界には、戦争のため、家族を亡くし、住む家もなく、働く場所もなく、食事も満足にとることもできない人々がたくさんいます。決して、同じ過ちを繰り返してはいけません。そのような揺るぎのない、強い意志を私たちは抱き、継承し続けなくてはなりません。

自ら学んだ平和学習(代表)

原爆の辛さを伝える写真(1年生)

1年生は、被爆関係の写真から伝わる原爆の恐ろしさや辛さを学び、発表しました。「焼き場に立つ少年」や「背中に大けがを負った谷口さん」(故 谷口稜暉:たにぐち すみてる)



等の写真を通じ、原爆のことを知らない人々に、その恐ろしさを伝えたい。最後に、「絶対に戦争はしてはいけない。決して『死ぬ』などのひどい言葉を言わないでください。」と締めくくりました。

コスタリカ共和国に学ぶ平和(2年生)



2年生は、自然保護を徹底して推奨し、決して軍隊を持たず、自国の警察も銃を持たない国として有名なコスタリカ共和国について学び、発表しました。

他国からは「平和の国」と認められているだけではなく、周囲の国の平和も大切にしている国です。また、高い教育水準で意識調査でも96%を誇っています。「戦争という悲しい過去がある日本でも、努力すれば平和で、幸せな国になれる。」と締めくくりました。

戦時中の子供たちを救うためには(3年生)

3年生は、争いの種類「戦争、紛争、内戦」を調べ、今、私たちにできることは何かについて学び、発表しました。



1978年アフガニスタン紛争では約200万人が亡くなり、2003年イラク内戦では約30万人、2011年シリア内戦では約50万人の多くの尊い命が失われました。

そして、様々な戦火の中には約4億1500万人の子供たちがおり、子供たちの様子はどうなっていたのか。世界中の人々はその現状を知っているのか?そして、一人一人が争いの様子を知り「世界の問題」として捉えることが大切!無関心であってははいけないと締めくくりました。

各学年の代表による平和学習発表終了後、前号で紹介しました戸町中学校平和宣言へと繋がっていききました。

夏休みも残り1/3。ラストスパート!

“急がば回れ” 急がず、焦らず、一步ずつ

「な」 何事にもチャレンジしよう

「つ」 積み重ねよう

「や」 やればできるという自信をもとう

「す」 炊事・洗濯等家の手伝いをしよう

「み」 みんな元気に過ごそう

26日(木)・27日(金)は実力テストです。

今回は、夏休み期間中の“努力点”でもあります。保護者の皆さまからも、激励の一声を!!(^_^)!

心の種

今回のテーマは「活躍と飛躍」です。

猛暑と豪雨。そして、新型コロナウイルス感染拡大。今年の夏休みは、まさに、「異常」と言わざるを得ない状況です。しかし、そのような中、吹奏楽部が県大会で金賞を受賞し九州大会出場。



そして、3年生の岡 秀真君がJOC ジュニアオリンピック夏季大会水球競技九州地区大会に出場し優勝。全国大会に進出。さらに、岡君は「最優秀選手」に選ばれました。

また、2年生の山下 玲奈さんが書いた「メディア活用 偏らぬように」が、長崎新聞の若い広場(8/17)に掲載されました。



それだけではなく、本校の卒業生である海星高等学校3年生の今里 翔吾先輩が、インターハイ硬式テニス競技でベスト4に輝き、校長先生、顧問の先生と共に報告に来てくださいました。メダルを持たせていただいたのですが、見た目以上に重かったです。

それでは留まらず、本校の卒業生から来年度の教育実習の依頼もありました。その他にも、英語科の「寺子屋学習」に参加した生徒や猛暑の中に頑張って練習に励んだ各部活動の選手たち。

様々な苦境の中でも、生徒(先輩)たちは、自分たちに与えられた環境の中で懸命に活躍し、そして、確実に飛躍しています。(^_^)v

